

淀川流域委ウォッチャーズNo.5 (050911版) 「住民との意見交換会を終わって」

7月1日の記者発表以来、怒涛の流域委員会も、各部会での地元住民との意見交換会で、一通りの区切りがついた感があります。ウォッチャーズも再開します。「出さないの?」と声をかけてくださる方もおられましたが、ダムを真中にまったく考えの違う傍聴者の集まる中、何を書いていかわからなかったのです。新しい河川法では、住民の意見を取り入れながら河川整備計画を作っていくことになり、流域委員会でもずいぶん議論されてきましたが、住民参加ほどみんなの考えがまとまらなかった議題はなかったような気がします。難しいですね。

私なりに、座右の銘のようなものはあります。私の母は、35年間地元の主な住民運動のすべてに関わり、小さな町で「全国初」といわれる成果をいくつも上げてきた人なので、私にとっては住民運動の師匠です。その母が日頃「住民運動は、もともとエゴから始まる。隣に高い建物を建てられたくないとか、気に入っている場所を破壊されたくないとか。それが、運動を続けるうちに違う立場の人たちに出会い、みんなのために良かれ未来の子供たちに良かれと考えたとき、それは信念となる。多くの人の支持を自然に得られるようになり、その運動は成功する。」と言うのです。住民の意見が対立した場合、どの意見を取るのか、どう合意するのかを考えると、私の中には、この言葉があります。多数決とか、声の大きい者勝ちであってはいけない。まして、有力者にうまく取り入るものの意見が通るようでは、世の中がゆがんでしまう。

だから、今のように行行政自らが、住民を集め対等に議論できる場所を提供してくれるのは、とてもいいことだと思います。さらに、その場を公開し、利害が絡まない客観的な立場の多くの人たちに議論を聞いてもらうことも大切です。ただ、流域委員会の絡みで意見聴取の会や対話討論会、意見交換会にずいぶん出席したけれど、今は住民のほ

うが住民参加、住民の意見を計画に取り入れるということの意味を、よく理解できていない気がする。公開の場で議論して、客観的な立場の人ばかりでなく対立する人からも理解が得られる意見であって始めて、その意見は住民意見として取り入れる価値がある。エゴの主張に終始し、他人の意見を一切聞く耳を持たない意見では「そういう意見もある」というだけで終わってしまう。多くの住民意見に対し、流域委員会は、あくまで客観的で公正な態度で臨む存在でなくてはならないのだと思います。

そういう意味では、今回の住民との意見交換会、傍聴者としては大いに不満が残りました。ダムに賛成、反対どちらの意見に対してでも、流域委員会や新しい河川整備計画の進め方に対する認識がまちがっていれば指摘すべきだし、その主張がまちがった知識に基づいたものであるなら、訂正を求めるべきです。意見発表者は、対話討論会に参加した人ばかりだし事前に意見も提出しているのだから、どういう主張をするのかは予想できたのに、彼らの主張に十分意見を交換したとは思えない。

休憩中、ウォッチャーズ仲間と話しても「今さら、何でこんな会をするの?」とか「対話討論会で言ったことと変わらないのに、また呼びつけて聞く必要ない」とか「メリットがない。お金の無駄」という批判が聞かれました。第二期の委員も、視察をして一応現地を見、意見交換会をして、一応住民の意見を聞いたというパフォーマンスに終わってしまった気がすることは残念です。

ただ、今まで慎重に言葉を選び多くを発言しなかった新規の委員が、代表委員や進行役を見事にこなし、ご自分の考えを鮮明にくださる場面に多く出会えたのは、今後の討論に期待が持てて、うれしいことでした。

(各部会で、同じ物を配ります。だぶる方ごめんなさい)

流域委員会裏話【4】ダム・ワーキングの洗礼

あまりスペースがないので、私のネタを。提言の前の第一期のダムワーキングに加えていただいたときの事です。ワーキングの後の反省会に付いて行きました。このメンバーの飲み方は半端じゃない。ガンガン議論し、ビールのピッチャーをガンガン空けていく。飲むほどに議論のボルテージが上がる。こちらも夢中で聞いていたら「君、帰り大丈夫か?もう12時やで」とのお言葉。「うそー」とあわてて店を飛び出し、JRの駅に急ぎ、終電の1本前の電車でやっと乗れました。「やれやれ」と思いきや、大阪で降りて阪急の連絡口に向か

ったら、すでにシャッターが閉まっている。取って返しJRに向かったら、ちょうど終電が出て行くところ。財布の中身を気にしながら、泣く泣くタクシーで帰りました。それで懲りて反省会に付いて行かなくなったかという、強烈な洗礼を受けて怖いものがなくなり、ガンガン付いて行くようになってしまいました。だって、反省会のほうが質問もし易くてわかりやすいし、本音の話が聞けておもしろいんですもの。今や、流域委員会の会場という会場の最寄の駅の時刻表が、立派なコレクションになりました。